

# 統計マンの悩み

——若い統計主任との対話から——

主査兼県勢統計係長 宇留野 真一郎

「統計は、何のために作るんでしょうか？」

市町村の統計担当者の会議が終ったあとの雑談で、ある村の若い統計主任から、真剣な顔つきでこう聞かれた。

この春、東京の大学を出て、家庭の事情で郷里の役場の統計係になったこの青年にとって、さきの質問は、かなり切実なものであるように見えた。

たしかに、役場でのほかの仕事——たとえば、窓口での住民へのサービス、道路の建設や補修、産業の振興対策など、といった業務は、それぞれはっきりした目的や内容を持っている。しかし、統計事務には、一見それがないように思われやすい。仕事のあり方にしても、大部分は、県や国から委託された事務でそれを少ない人手でどうにか処理するのに明け暮れている、というのが実態に近い。就職早々の彼が「統計は何のために。」と思うのも、無理はないかも知れない。

「統計がもしこの世の中に無かったとしたら、どうなるだろうか？」

質問に直接答える代わりに、私は、若い統計主任にこう問い返した。そして、「統計の大切さ」を、いろいろ例を挙げながら説明した。

「統計は、大切なものです。」とは誰でも言う。では、なぜ、どのように大切なのか——これに、うまく答えることは、必ずしも容易なことではない。たとえば窓口での住民サービス、といったような具体性に乏しいからである。結局、統計は、行政や企業や家計などの活動にとって、水や空気のような存在と言えないだろうか。それは、無くてはならないものではあるが、本来の重要性に見合った評価がなされにくのである。

このように、水か空気のようにも見られる統計だから、それを作る仕事は、いかにも地味で、たしかに、若い人にとっては、魅力の少ない仕事かも知れない。とくに、地方で、委託統計の事務だけに従事したりしていると、余計にそう思われるかも知れない。しかし、自分の県や市町村の実態を知るために、必ず誰かがやらなければならない仕事だし、また、調査結果の解析などの作業は、若い人にとって、充分魅力のある仕事といえる。それに委託統計とはいうけれど、委託統計だからこそ、県や国という広がりの中で、自分の市町村の姿を客観的にとらえることができる、ということになるのではないか——。

このような理屈で、若い統計主任を相手に、説得これにつとめた次第だが、うまく分かってもらえたかどうか——。いずれ、彼が、半年なり1年なり経験を積んだあとで、また話し合ってみたい、と楽しみにしている。

つぎは、別の場所での話はなし——。相手は、3年ほどの経験を持つ、やはり若い統計主任である。彼は、自分の手がけている統計調査が、果たして本当に正確と言えるだろうか、ということに、疑問と悩みを持っている、と訴えた。

「調査対象から提出される調査票の内容は、すべて真実だと言えるだろうか？」と彼は考える——。調査票の誤りには、単なる間違いと、故意になされる不正申告とがあるが、問題はもちろん後の場合である。たしかに、自分の仕事に打ちこみ、そこにやり甲斐を見出だそうとしている真面目な青年にとって、この悩みは痛切で、とてもひとごととは思えない。

「統計調査は、その企画から実施、集計の全段階が、すべて誤差との闘いだ。」などと言われる。しかも統計の真実性確保のためのこの闘いは、第一線とてくに厳しく、つらい。最近、「調査環境の悪化」などという言葉で、被調査者側の協力性の低下と、一方、調査する側で第一線を担当する統計調査員の確保の困難さがうんぬんされるが、いまいつたような言葉で、概括的に表現されるには、問題は、あまりに深刻である。

彼とは、統計調査実施上の、調査する側および調査される側双方の問題点を話し合った。そして、この問題点——調査の困難さは、人口の増加で新しい住民がふえたり、経済情勢のなりゆきから企業経営がいつそうきびしさを加えつつある状況のなかで、だんだん悪化してゆくのではないかと、ということになった。

こうした中で、正しい統計調査が行なわれるためには、基本的には、統計に対する国民全体の認識の高まりが必要で、それには、統計の重要性についての不断の啓蒙が欠かせないが、もしそうだとすれば、われわれのやるべきことは何か。また、そんな速大なことはさておき、いまずぐにでもやれること、やるべきことがあるのではないかと——。

彼との対話も、機会があるたびに、まだまだ続けなければなるまい。

# 統計課アラカルト

## 消費統計係

今回の統計課アラカルトは、消費統計係を紹介しましょう。世の中はインフレ（田中首相の辞典にはこの言葉は載っていないそうであるが……。）物価高で家計をやりくりしている奥様方は毎日大変苦労していることと思われる。そのためか、係員一同毎日大変な忙しさのように見受けられる。統計課の仕事は「地味である」とよく言われるように、すぐに世の中の反響があることは少ないのである。しかし、世情を反映してか、当係でまとめている消費者物価指数、小売物価調査は大変興味をもたれているので、係員も頑張り甲斐のあることと思われる。

ところで、49年度の主な仕事を紹介すると、5年毎に実施される全国物価統計調査、家計調査、茨城県消費者物価調査、小売物価統計調査等があります。これらの仕事を総勢8名でこなしているのが現状である。係を総括している 坪満長係長は当課にくる前は県民福祉課海外旅券係に勤務していた。この係長、顔に似合わず？、レパトリーの広さは抜群。その経歴は今でも後光のごとくサンゼンと輝やいている。その一端を紹介すると、全国にその名も高き「水府流水術」の指南免許をもち、旧中学時代には、背泳の県記録を樹立し、なんと13年間もの長い間この記録は破られなかったというほど。今年の夏季国体にはその「水術」が披露される予定。仕事の方も異色である。4年ほど前に単身、カナダ、アメリカ、ブラジル、アルゼンチン等、北米、南米に出張し日本人移住者、日系企業の活動を調査し、日系人の優秀さに驚いたとか。視野の広さは抜群で、泰然自若としている。家族は妻と娘2人の4人家族であるが、長女はイギリスへ留学中とかで目下3人暮らし。盆栽に熱中、万年青（オモト）に魅せられて、264鉢培養中と聞く。統計課アラカルトは係長1人で字数制限をオーバーするほどの異色ぶりである。

千里とき主事は、統計課13年のベテラン統計女史である。毎日、雨の日も風の日も「初心忘れるべからず」のタトエ通り出勤して、計算機を縦横に使い茨城県及び水戸市の消費者物価指数作成に取り組んでいる。趣味は読書とのこと。

飄々乎としているのは高野貞良主事、茨城県消費実態調査、全国消費実態調査、消費者動向予測調査を担当している当係のEである。勝田市高野から毎日常磐線にチャットだけ乗って通っている38歳の働きざかりの中年紳

士である。家庭は現代を代表するような長男・長女をもつ四人暮らし。課員からは「陛下」と呼ばれており、大変にその容姿は今上天皇に似ておられる。本人の弁で、大衆のする遊びはすべて経験済みだが、何一つ上達しないそうである。そのため道楽と名のつくものは一つもないとのことである。家計調査を一手に引受けているのは小林公道主事6月1日付の内部異動で労働統計係から当係に配属になったもの。前回のアラカルトで紹介済みなので省略。

石田昭一主事は、現在総理府統計局へ今年の4月から研修に行っており、10月には職場復帰することになっている。仕事の方は現在不在のため悪しからず省略。瓜連町から通っている旅館の息子である。人手不足のおり、ときどきは「まかない」の手つだいをするので料理の腕は抜群とのこと。また県庁サッカー部員としても活躍中である。野球は投手以外はやってもおもしろくないということ。サッカーの試合の日は東京からかさず帰ってくるほどの打込みようである。全国物価調査を担当している。

富永重己主事、常北町の田舎から通っている酒屋の次男坊。サッカー部の創設者の一人である。三度の飯よりサッカーが好きらしい。酒屋の次男坊は昔から道楽息子とその名も決まっていたが、本人はいたって真面目。常北町から白いクラウンハードトップでさっそうと通勤し、家へ帰れば、広沢虎造の「森の石松」に凝っている御仁。

いつも真黒な顔をしているのは松山隆主事。小売物価統計調査を担当しているかたわら、県庁山岳部のメンバーである。少し顔が見えないかと思うと顔の前後がわからなくなるほどに日焼けして帰ってくる。日立市に居を有し5人兄弟の末子である。趣味は山登りのほかに「少年サンデー」を愛読している。それは大変な読書家である。なんでも最後に顔を出すのが大物とばかりにかまえているのは中島洋子主事補。住民税は山方町に収めている才女、今は亡き、与謝野鉄幹も詩っているような、それは盾目うるわしく情ある20才の乙女。仕事は消費者物価指数を担当している。指数の中島と云われるぐらいに仕事熱心、今は恋愛小説に夢中であり、本人も熱烈な恋にあこがれているとのこと。夢多き乙女に幸あれと思うのはなにも無粋な筆者だけではあるまい。

# 新 着 資 料 案 内

この新着資料案内は、5月中に行政資料室に到着したもののうち主なものを掲載しましたが、このほかにも

報・雑誌等数多くきておりますのでご利用下さい。

行政資料名	内容年	規格		発行所(者)
		判	頁	
<b>中央官公庁関係</b>				
1974 日本 の 統 計	49	A5	299	総 理 府 統 計 局
昭和48年 消 費 者 物 価 指 数 年 報	48	B5	193	〃
昭和47年 家 計 調 査 年 報	47	〃	516	〃
昭和26年～昭和46年 家 計 調 査	26～46	〃	527	〃
昭和49年 地 域 メ ッ シ ュ 統 計 の 解 説	49	〃	51	〃
都 道 府 県 市 町 村 別 メ ッ シ ュ コ ー ド 一 覧	45	〃	82	〃
昭和48年 増 加 図 書 年 報	48	〃	196	〃 図 書 館
昭和49年 日 本 統 計 月 報 資 料 解 説	49	〃	195	行 管 庁 行 政 管 理 局
昭和49年 新 国 民 経 済 計 算 の 体 系	〃	〃	393	経 企 庁 調 査 局
1970年 経 済 地 帯 別 林 業 調 査 報 告 書	45	〃	165	農 林 省 統 計 情 報 部
昭和46年 林 業 生 産 統 計 年 報	46	〃	173	〃
〃 出 か せ ぎ 状 況 調 査 報 告 書	〃	〃	199	〃
昭和47年 食 鳥 流 通 統 計	47	〃	54	〃
〃 耕 地 面 積 統 計	〃	〃	237	〃
〃 水 産 物 流 通 統 計 年 報	〃	〃	317	〃
〃 林 家 経 済 調 査 報 告	〃	〃	214	〃
〃 林 業 生 産 統 計 年 報	〃	〃	165	〃
〃 漁 業 養 殖 生 産 統 計 年 報	〃	〃	311	〃
〃 鶏 卵 流 通 統 計	〃	〃	43	〃
〃 〃 機 構 調 査 報 告	〃	〃	72	〃
〃 漁 業 動 態 調 査	〃	〃	221	〃
〃 試 験 研 究 成 績 第 24 報	〃	〃	219	〃
昭和48年 農 業 調 査 結 果 報 告 書	48	〃	147	〃
〃 耕 地 及 び 作 付 面 積 統 計	〃	〃	178	〃
〃 水 陸 稻 収 穫 量	〃	〃	76	〃
〃 農 家 子 弟 の 新 規 学 卒 者 の 動 向	〃	〃	69	〃
水 陸 稻 ・ 麦 の 平 年 収 量 累 年 統 計 表	30～46	〃	57	〃
第 4 9 次 農 林 省 統 計 表	47～48	〃	517	〃
昭和47年度 国 有 林 野 事 業 統 計 書	47	〃	356	林 野 庁 監 査 課
昭和47年 セ ル フ サ ー ビ ス 店 に 関 す る 統 計 表	〃	〃	113	通 産 省 調 査 統 計 部
昭和49年 蔵 書 目 録	49	〃	399	労 働 省 図 書 館

行政資料名	内容年	規格		発行所(者)
		判	頁	
昭和45年 水 害 統 計	45	B5	489	建設省 河川局
昭和47年 " "	47	"	738	"
昭和48年 全国都道府県市区町村面積調	48	"	161	" 国土地理院
昭和46年度 旅客地域流動調査	46	A4	127	運輸省 情報管理部
" 貨物 "	"	"	587	"
昭和47年度 国税庁統計年報書	47	B5	186	国税庁 総務課
" 法人企業の実態	"	"	166	"
<b>茨 城 県 関 係</b>				
昭和47年度 市町村公共施設の現況	47	B5	139	地 方 課
" 市町村財政実態資料	"	"	554	"
昭和48年 " "	48	"	560	"
国民健康保険疾病分類統計表	"	A4	69	医療福祉課
県西地域総合開発計画	49	B5	41	開発計画課
茨城県における果樹の動向	47	"	87	農産園芸課
昭和48年度 果樹広域主産地形成事業計画	48	"	45	"
茨城県公害技術センター研究報告	43~47	"	296	茨城県公害技術センター
精神障害に関する意識調査	47	"	37	茨城県精神衛生センター
茨城県蚕業試験場要報(第6号)	48	"	122	茨城県蚕業試験場
昭和47会計年度 いばらきの教育費	47	"	132	教育庁 総務課
昭和49年度 教育行政の概要	49	"	86	"
<b>県 内 市 町 村 関 係</b>				
昭和48年 統計いしおか	48	B5	37	石岡市役所
昭和45年の統計	45	"	116	下館 "
1972 竜ヶ崎市勢要覧	47	A4	51	竜ヶ崎 "
竜ヶ崎市総合計画	48~52	B5	106	"
総合計画資料(現況調査)	41~46	B4	62	"
1973 藤代町勢要覧	48	A4	24	藤代町役場
1971 かつら村勢要覧	46	B5	40	桂 村 "
1968 だいが町勢要覧	43	"	36	大子町 "

## 統計ニュース

### — 7月の行事予定 —

- 2日~3日 関東ブロック県民所得研究会(茨城)
- 4日~5日 統計事務基礎研修
- 9日~10日 " "
- 11日~12日 全国消費ブロック会議(第2次, 山梨)
- 15日~16日 国調調査区設定ブロック会議(東京)
- 18日~26日 1975年農業センサス準備調査  
市町村説明会
- 23日~24日 全国消費市町村担当者会議(第2次)
- 26日 毎勤特別調査打合せ(とぎわ荘)